

## 平成26年度第4回川崎市子ども・子育て会議 議事録

日時：平成27年3月30日（月）19時00分から

場所：川崎市役所第3庁舎18階 大会議室

### ■出席者

委員	公益社団法人 川崎市幼稚園協会 会長	伊藤 夏夫 氏
	川崎地域連合 副議長	稲富 正行 氏
	社会福祉法人 川崎市社会福祉協議会 施設部会保育協議会 会長	奥村 尚三 氏
	公益社団法人 川崎市医師会 副会長	片岡 正 氏
	公益財団法人 川崎市生涯学習財団 理事長	金井 則夫 氏
	川崎市民生委員児童委員協議会 会長	齊藤 喜信 氏
	鎌倉女子大学短期大学部 教授	佐藤 康富 氏
(副会長)	学校法人鷗友学園 特別顧問	柴田 頼子 氏
	川崎商工会議所 副会頭	鈴木 直久 氏
	NPO 法人 グローイン・グランマ 代表	関 和子 氏
	NPO 法人 子育て支えあいネットワーク満 コンシェルジュ事業担当	関川 房代 氏
	川崎市北部地域療育センター準備室(社福 同愛会) 地域支援部長	地村 明子 氏
	田園調布学園大学みらいこども園 園長	長南 康子 氏
	公募委員	徳谷 さやか 氏
	元 和泉短期大学 教授	中村 美津子 氏
	川崎市青少年指導員連絡協議会 理事	野垣 良子 氏
	公募委員	放生 佳奈 氏
	株式会社 ぶどうの木 代表取締役	堀 晴久 氏
(会長)	田園調布学園大学 教授	村井 祐一 氏
	川崎市こども家庭センター 所長	山口 佳宏 氏
	専修大学 教授	吉田 弘道 氏
事務局	子育て施策部長	北 篤彦
	子育て施策部担当課長(子ども・子育て支援新制度準備担当)	相澤 太
	子育て施策部こども企画課担当課長〔子育て推進担当〕	大野 明子
	子育て施策部青少年育成課長	山本 奈保美
	子育て施策部青少年育成課担当課長〔施設指導・調整担当〕	萱原 諭
	こども支援部こども福祉課長	北谷 尚也
	こども支援部こども家庭課長	堀田 彰恵
	児童家庭支援・虐待対策室担当課長	小泉 幸弘
	待機児童ゼロ対策室担当課長	佐藤 佳哉
	保育事業推進部保育課長	田中 眞一
	保育事業推進部保育課担当課長〔運営調整担当〕	奈良 眞澄
	保育事業推進部保育課担当課長〔民間保育園指導調整担当〕	須藤 聖一
	保育事業推進部保育所整備推進担当課長〔民間活用推進担当〕	眞鍋 伸一

中原区子ども支援室	1名
川崎区こども支援室	1名

傍聴者 無し

## ■配布資料

### 議事次第

川崎市子ども・子育て会議 席次表

川崎市子ども・子育て会議 委員名簿

川崎市市民・こども局こども本部関係職員（管理職）名簿

川崎市子ども・子育て会議条例

資料1-1 (仮称)川崎市子ども・子育て支援事業計画素案に関するパブリックコメント手続きの実施結果について

資料1-2 川崎市子ども・子育て支援事業計画の策定について

資料2-1 平成27年度からの川崎市子ども・子育て会議部会について

資料2-2 平成27年度川崎市子ども・子育て会議スケジュール(案)

資料3 教育・保育施設及び地域型保育事業の利用定員の設定状況について

別添 「川崎市子ども・子育て支援事業計画 子どもの未来応援プラン」

## ■報告

(議事に入る前に2月に発生した多摩川河川敷で中学生が殺害された事件に対する検討会議が開かれたことに関して報告がなされた。)

## ■議事

(開会にあたり、事務局より、全委員22名中18名が出席(3名遅刻)し、会議条例第6条第2項の規定により、委員の半数以上が出席し会議の定足数を満たし会議が有効である旨の説明がなされた。)

### 【議題】

(1)川崎市子ども・子育て支援事業計画の策定について【報告事項】

【村井会長】 各部局の方々が厳しい時間の中、冊子を完成させていただいたことに感謝する。まずは事務局からご説明いただきたい。

(事務局より、資料1-1、資料1-2、に基づき説明がなされた。)

<質疑等>

なし

(2)平成27年度川崎市子ども・子育て会議の部会及びスケジュール(案)について【報告事項】

(事務局より、資料2-1、資料2-2に基づき、説明がなされた。)

<質疑等>

【村井会長】 スケジュール及び会議体制について説明いただいたが、本件について委員の皆さんのご意見・ご質問を頂戴したい。

資料2-1、2-2ともに(案)と付いているが、今日の会議での承認後、(案)は削除するという考えで相違がないか、事務局に確認したい。

【事務局】 承認いただいた後、(案)は取らせていただきたい。

【村井会長】 議事では【報告事項】と記載されているが、承認が必要であるという観点から、【審議事項】扱いが正しいのではないかと。また、名称については事務局から訂正が行われているが、他に意見があれば発言していただきたい。

【村井会長】 他に意見が見受けられないようなので、資料2-1、2-2ともに（案）を取らせていただく。

(3) 教育・保育施設及び地域型保育事業の利用定員の設定状況について【審議事項】

(事務局より、資料3に基づいて説明がなされた。)

<質疑等>

【村井会長】 本件についてご質問・ご意見があるようであればお願いしたい。

【徳谷委員】 利用定員数と認可定員数の記載があるが、来年度以降、認可定員数は利用定員数に合わせていくという認識か。子どもを預けている保育園では認可定員数が30であるのに対し、通っている子どもの数は明らかに多く、実際直近3年間の平均は認可定員数を超えている。これはどのような捉え方をすればいいのか。

【事務局】 認可定員数を超過して受け入れられる理由として、保育園の面積が足りていることがあげられる。面積要件を満たしていれば2年間は定員数の超過を20%増まで認めている。しかしこの状況が続くのであれば、定員数の見直しを行っていく必要がある。

【村井会長】 他にご意見などあればお願いしたい。

【吉田委員】 定員数に関して、市民の関心が一番高いのが「充足率」だと思う。充足率について記載がないと、市民には伝わりにくいのではないかと。

【村井会長】 今後審議を行うにあたって、充足率を踏まえた方が対策を立てやすいという話であり、是非事務局の方で検討いただきたい。また充足率に関してだが、どのような場面で利用するイメージなのか今一度説明いただきたい。

【吉田委員】 定員数の妥当性を判断する1つの資料として使ってほしいと考えている。

【地村委員】 充足率を記載して利用定員数の変更役に役立ててほしいという意見が出たが、現状とのギャップがあるなか、充足率をどのように算出していくのか疑問が残る。希望する保育園に入園できず、やむを得ず他の保育園に入園したなど、数値上では反映されない部分をどのように対処していくのか。

また、保育園が充実していない地域に対しては、保育園自体の充足を行ってほしい。正規雇用で勤務している方でも保育園の入園が厳しい現状にあるため、勤めていても子どもを安心して預けることのできる体制を整えてほしい。

【村井会長】 地村委員からいただいた意見は、議題の利用定員数の設定状況とは若干異なるものの、来年度以降の評価の指標となる提案である。利用定員数に対して異論がないようであれば、資料3に関しては了承を得たい。また運用実態や充足率等いただいたご意見に関しては、来年度以降の推進部会等で検討いただければと思う。

【事務局】 事務局で精査後、ご提案させていただきたい。

(4) 「その他」

<質疑等>

【村井会長】 事務局から連絡事項をお願いしたい。

- 【事務局】 川崎市子ども・子育て支援事業計画の策定について尽力いただいたことにお礼を申し上げたい。子ども・子育て支援制度が平成27年度にはじまる関係上、子ども・子育て会議は今後、こども企画課が担当させていただく。また本部の体制に関しても、次回の会議でご説明させていただければと思う。
- 【村井会長】 我々委員も来年度に向けて、推進に向けてのバックアップを行っていききたい。最後に委員の方々に一言いただきたい。
- 【伊藤委員】 川崎市の現状を知ることができ、よい経験ができた。
- 【稲富委員】 働く者の立場として参加させていただいた。状況に応じた改善を今後もお願いしたい。
- 【奥村委員】 議会で得た知識や課題等、次回の会議で生かしていききたい。
- 【片岡委員】 この会議を通して、幼児保育及び病児保育に関して勉強できたと思う。
- 【金井委員】 財団では親（大人）だけでなく、親子の支援へとシフトし、特別支援ボランティア養成講座等を行っている。今後は施策と重なった部分で何かできればと思う。
- 【齊藤委員】 皆さんからの貴重な意見を耳にする機会があったことに感謝している。
- 【佐藤委員】 新制度が施行されるまで、このような準備期間を設けられていることを知り、大変勉強になった。今後学生に対しても周知させていききたいと思う。
- 【鈴木委員】 現状と照らし合わせながら、施策について考えて行きたいと思う。
- 【関委員】 子どもを取り巻く実態に関して勉強することができた。これを自分たちの事業にも生かしていききたい。
- 【関川委員】 支援センターを運営しており、施策に関する意見・要望をうかがう機会が多い立場としては非常に有意義な会議であった。新制度に関しても、サポートしていければと思う。
- 【地村委員】 川崎市の子育て支援に関して、委員の方や市役所の方と一緒に議論できたことを大変嬉しく思っている。子どもがもっと住みやすい街にしたい。
- 【長南委員】 本日配布された子どもの未来応援プランを常備し、いつでも活用できるようにしておきたい。
- 【徳谷委員】 一市民として参加させていただくなかで、地域と子育ての連携について考えるようになった。今後も継続して地域と子育てに関わっていききたい。
- 【中村委員】 子育て支援ばかり注視されているが、子どもの未来応援プランという冊子のタイトルは、今までの議論が形として表れていた。また、新制度について事務局や委員の方々と議論できたことを大変嬉しく思っている。
- 【野垣委員】 会議に参加できたのは2回のみであったが、委員の方々の意見等大変参考になった。この事業計画について、息子だけでなく孫にも是非伝えていきたい。
- 【放生委員】 専門的知識がないため難しい話も多かったものの、参考となる意見が多く、機会があればまた参加したい。会議内では保育園の推進事業が目立っていたが、幼稚園にも注視していただければと思う。
- 【堀委員】 新制度をどのような形で支えていくのか、これからは本番だと思う。今後この制度を継続させていくためには、幅広い連携や地道な積み上げ作業を行っていく必要があるのではないだろうか。
- 【吉田委員】 事業計画策定に関わらせていただき、大変勉強になった。
- 【山口委員】 児童相談所の立場から参加したが、特別な配慮を有する子どもたちのことが十

分に反映されており、大変嬉しく思っている。  
【柴田副会長】 忙しいなか、事務局の誠実な対応のおかげで、策定がスムーズに進んだと思う。  
また、この計画が十分力を発揮できるよう、使いこなしていきたい。

■ 閉会

【事務局】 これをもって本日の審議は終了させていただく。

以 上